



2021年6月18日

アウディ ジャパン株式会社
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120-598-106
アウディコミュニケーションセンター

電力会社とのパートナーシップ：グリーン電力を使用する充電ステーションの増設に向けて再生可能エネルギーの拡大に資金を提供

- カーボンニュートラルなモビリティというビジョンに向けた次のステップ：欧州における風力発電および太陽光発電の拡大に資金を提供
- アウディが資金提供したプロジェクトは、2025年までに5テラワット時のグリーン電力を電力網に追加供給する見込み
- 最初のプロジェクトは、ドイツ国内で2022年に稼働を開始するRWEとの合弁ソーラーパーク
- 技術開発担当取締役オリバー ホフマン：「カーボンニュートラルなモビリティを実現するために懸命に取り組んでいる」

(ドイツ本国発表資料) 2021年6月17日、インゴルシュタット：きわめて明快なビジョン。アウディはカーボンニュートラルなモビリティのプロバイダーになりたいと考えています。その目標を達成するため、アウディは電力会社と連携し、再生可能エネルギー源の利用拡大をサポートしています。目標は、これらのさまざまなパートナーと協力して、2025年までにヨーロッパのさまざまな国に新しい風力発電所と太陽光発電所を建設することです。それにより、約5テラワット時のグリーン電力が生み出される見込みです。これは、約250基の風力発電タービンを新設した場合の発電量に相当します。その目標は、パートナー企業との協力の下、電気自動車の増加に合わせて、再生可能エネルギー源から生成された電力の割合を増加させることです。最初のプロジェクトであるドイツのメクレンブルク-フォアポンメルン州のソーラーパークは、ドイツの電力会社、RWEと共同で開発されています。このプラントは2022年に稼働を開始し、総発電能力は1億7,000万キロワット時を想定しています。約42万枚のソーラーパネルを使用するこの施設は、ドイツ国内で最大規模の独立系ソーラーパークとなります。以後もプロジェクトが次々と立ち上がる予定です。

2050年までにCO₂排出量を正味ゼロにするというアウディのビジョンを達成するための次のステップは、電力会社との連携です。この目的を達成するために、アウディはモデルライフサイクル全体を調査し、それらを3つの段階に分けています。すなわち製造ステージ（原材料の採掘からコンポーネントの製造、自動車の組立まで）、使用ステージ（燃料や電力の供給も含む車両の稼働段階）、そしてリサイクルステージです。アウディが中期目標として掲げているのは、全世界にあるアウディフリートのライフサイクル全体におけるCO₂排出量を、2025年までに30%削減することです。アウディは、ヨーロッパの電力会社との連携を通じ、使用ステージにおける継続的な脱炭素化を目指しています。

電気自動車の場合、最も重要な要素の1つは充電に使用する電力です。電気自動車は、走行時にCO₂を排出しませんが、発電段階では違います。CO₂排出量は、再生可能エネルギー源よりも化石燃料から電力を生成した場合の方がはるかに多くなります。そのため、アウディは再生可能エネルギーの生成に直接資金を提供する予定です。電力会社とのパートナーシップは、まだグリーン電力を活用しきれていない充電プロセスをカバーすることも目的としています。その目標は、パートナー企業との協力の下、電気自動車の増加に合わせて、再生可能エネルギー源から生成された電力の割合を増加させることです。たとえば、アウディのお客様は、フォルクスワーゲンの子会社であるElli (Electric Life) が提供するグリーン電力を使って、自宅で充電することが可能です。外出先での充電では、IONITYネットワークを初めとする数多くの充電ステーション業者が、グリーン電力を使用し始めています。

アウディの技術開発担当取締役のオリバー ホフマンは、次のように述べています。「私たちは、カーボンニュートラルなモビリティを実現するために懸命に取り組んでいます。次のステップは、再生可能なエネルギー源の使用を拡大し、産業に対応可能なレベルまで引き上げることです。私たちの最初のプロジェクトであるメクレンブルク-フォアポンメルン州の大規模ソーラー パークは、早ければ 2022 年に稼働を開始します」。これに関連して、アウディは地域的なアプローチを採用し、充電需要が特に高い地域でのプロジェクトの実施を優先しています。アウディとパートナー各社は、追加のグリーン電力の生成を支援することにより、すでに利用可能な再生可能エネルギーと競合することなく、アウディフリートに充電用の電力を供給できるようにしています。長期的には、ヨーロッパ以外も含めた他の地域への拡大も視野に入れていきます。

包括的アプローチ：製造ステージにおける脱炭素化

アウディは製造ステージにも焦点を当てており、2018 年にはサプライチェーンにおける CO₂ プログラムをすでに開始し、直接取引のあるサプライヤーと協力して CO₂ 削減の可能性を特定しています。クロードマテリアルサイクル、二次素材の使用の段階的な増加、プラスチックコンポーネントにおけるリサイクル素材の使用、グリーン電力の使用はすべて、CO₂ 排出量を削減する具体的な可能性を提供します。

アウディは、今後の発注に関して、サプライヤーとこれらの措置を実施することについて契約上合意することを目指しており、2025 年までには完全に施行する予定です。2018 年以降は、高電圧バッテリーセルメーカーとの契約において、グリーン電力の使用がサプライヤー契約の必須条件とされてきました。アウディは、ライフサイクル分析に基づき、各社が採用している施策の有効性を判断し、独立した第三者機関による認証を取得しています。この包括的プログラムは、直接取引のあるサプライヤーだけでなく、その二次サプライヤーも対象としています。

世界中のアウディ拠点の環境フットプリントを削減するためのすべての活動は、「Mission:Zero」と呼ばれる環境プログラムに統合されています。主要な目標は、2025 年までにすべての拠点で、CO₂ 排出量を正味ゼロにすることです¹。アウディ プリュッセルはすでにこれを 2018 年に達成しており、2020 年にはアウディ ハンガリーも続けました。アウディのヨーロッパのすべての生産拠点では、グリーン電力のみを使用しています。ベーリンガーホフ工場での Audi e-tron GT の生産、フォルクスワーゲンのツヴィッカウ工場における Audi Q4 e-tron の生産は、いずれも正味ゼロ¹のプロセスを採用しています。同じことが、ヨーロッパおよび米国における Audi e-tron モデルの納車にも適用されています。サプライチェーン、製造、輸送段階などにおいて、どうしても避けられない CO₂ 排出量は、気候変動と闘うための対策を支援するカーボンクレジットの購入により相殺されます。そのプロセスは、非営利団体の Gold Standard または Verified Carbon Standard (VCS) による認証を受けています。

¹ CO₂ 排出量「正味ゼロ」に関するアウディの解釈とは、あらゆる削減対策を採用した後で、アウディの製品や活動によって排出される、もしくはアウディのサプライチェーン、製造、リサイクルにおいて現段階では排出が避けられない CO₂ は、世界レベルのプロジェクトで相殺するというものです。車両の使用段階で排出される CO₂、すなわちお客様へ納車された時点から発生する CO₂ 排出量は考慮されていません。